

平成20年度

目黒区学力調査と改訂授業改善プラン

「目黒区学力調査」の概要

「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン

- ・全体構想

- ・第1学年～第3学年

平成20年7月

目黒区立第十一中学校

「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	56 人	66 人	72 人
実施数	56 人	66 人	71 人
受検率	100 %	100 %	98.6 %

(2) 調査内容と実施教科

学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

生徒の学習に関する意識

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科

2年 意識調査、国語、数学、英語、社会、理科

3年 意識調査、国語、数学、英語、社会、理科

(3) 実施日

平成20年4月11日（金）

目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

学 校 教 育 目 標

人間尊重の教育を基調として、自ら学び、考え、よりよい生き方を実践できる生徒を育成する。

思いやり

責任感

実行力



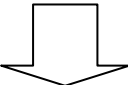
教育課程届における指導の重点

- (ア) 意欲的に学習に取り組ませ、自ら学ぶ態度を身に付けさせる。
- (イ) 基礎的、基本的事項をふまえて、学習内容を精選かつ定着させる。
- (ウ) 少人数加配教員や学習指導員を有効活用し、T・Tや習熟度別指導および少人数指導など、個人差に応じた指導法の工夫・改善に努める。
- (エ) 選択教科で、生徒一人一人の能力・適性といった生徒の長所を認め、伸ばす指導を図るとともに教科の基礎・基本を徹底する。



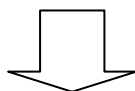
本校の学力向上に向けた視点（学校全体）

指導方法等の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
「楽しい授業」を通して、学習内容の確実な定着・向上を目指す。T・少人数授業・習熟度別授業を更に工夫・充実し、「個に応じた指導」に努める。	授業時間を確保するために、教育相談期間を夏季休業中に設けたり、二期制に伴っての始業式全体集会等で工夫を行う。	今年度の研究主題「確かな学力を身に付けさせ、生きる力をはぐくむ指導のあり方 新学習指導要領の研究と環境教育・環境活動の充実」のもとで、研究授業、校内研修を行う。	各教科で小テスト、単元テストを行う。評価方法の工夫及び評価規準・指導計画の見直しを随時行う。	隣接する東京工業大学との連携を図る教育活動、地域の人材を活用する教育活動を推進する。各学年通信、学校便りの発行を通し、家庭との連携を図る。

区学力調査の結果から見られる成果と課題				
国語	数学	英語	社会	理科
<p>「話す力・聞く力」「言語についての知識・理解・技能」の到達度が高くなっている。領域別にみると、「音声言語」「言語事項」が高くなっている。また、「書く力」「読む力」の到達度は不十分であり、「文学的文章」が課題・復習ポイントといえる。</p>	<p>「数学的な表現処理」「数量、図形などについての知識・理解」の到達度が高くなっている。領域別に見ると「図形」「数量関係」が高くなっているが、「量と測定」に課題があり、復習ポイントとなる。</p>		<p>社会科の学習内容をインターネットなどで調べようとする学習意欲・態度は実践を伴って力をつけていると言える。その一方、根気よく地名を地図帳などで調べようとする意欲には欠けている。</p>	<p>全ての観点で目標値を上まわっているが、全般的に補強が必要である。「科学的な思考、観察・実験の技能・表現」の到達度が他と比べて低くなっている。領域別にみると、「物質とエネルギー」「地球と宇宙」が低く弱みになっており、復習ポイントといえる。</p>
				
学力向上のためのポイント				
国語	数学	英語	社会	理科
<p>少人数授業での読解や作文等を行い、人が読める文を書くということに重点を置き、学習を進める。意味の通じる文章を書く練習もしていくとともに、朝読等も利用して「読むこと」に親しむ機会をもつようにする。</p>	<p>計算練習量を増やし、計算力の向上を図る。また、授業で小テストを実施して、計算方法の工夫を考えているか、問題を解いた後、ミスがないか見直す習慣が身についたかを確認し、基礎の定着を図る。</p>	<p>基礎的な知識、理解を確実に定着させるために学習内容を繰り返し指導することときめ細やかなチェックを心がける。 表現力をつけるために、おりにふれオレリナルの文章を作成させ、発表の機会を多く作る。</p>	<p>地図帳や資料集をできるかぎり多く活用して意欲的にデータを調べる学習環境を定着すべく、授業の中で意識付けを行っていく必要がある。地名の小テストなどを学習の中にとりいれていくよう、心がける。</p>	<p>基礎・基本の確認と徹底が必要である。小学校からの復習を取り入れながら、粘り強く指導を重ね定着を図る。個別実験や確認テストを行い、各自が自分の弱点をフィードバックできるように指導していく。また、自ら発展的な内容に進めるよう個人的なアドバイスを積極的に行い「科学的な思考」を伸ばす。</p>

区学力調査の結果（前年度第1学年と比較）等から見られる成果と課題

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
全般的に学力を高めていくことが求められている。「書く力」「読む力」の到達度が不十分である。領域別にみると、「説明的文章」「文学的文章」に課題があり、復習ポイントとなる。	全般的に学力を高めていくことが求められている。「数学的な見方や考え方」「数学的な表現・処理」の到達度が不十分である。領域別にみると、「図形」「数量関係」に課題があり、復習ポイントとなる。	「基礎」「言語文化理解」の到達度は高い。「応用」「表現」の力が課題である。	歴史的分野では、古代社会から中世社会へ移行する過程で、武士が成長していく過程についての理解が希薄であることが確認された。また、中世の文化の理解も課題である。	「観察・実験の技能・表現」「自然事象についての知識・理解」が高くなっている。領域別にみると、「植物の生活と種類」が高くなっており強みといえる。また「科学的な思考」が低くなっている。詳細をみると、「身近な物理現象」「大地の変化」が低く弱みになっており、復習ポイントといえる。

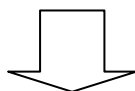


学力向上のためのポイント

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
基礎学力の定着を図るため、昨年度同様人が読める文を書く、声をきちんと出して話す、ということに重点を置き、学習を進める。意味の通じる文章を書く練習をしていくとともに、朝読書等も利用して、様々な文章になるべく多く触れる機会をもつようにする。	昨年度同様、基礎学力の定着を図る必要がある。そのため、分からない問題や間違えた問題は繰り返し練習をして、基礎学力の向上を図る。図形では基本的性質を明らかにし、図形の論証では筋道を立てて考える力の定着を図る。	さまざまな場面や条件に応じた英文を書けるように指導する。既習の語句を用いて英文を書かせ、書いたものを発表することで力をつけさせる。	歴史的分野では、平安時代から鎌倉時代へ移行する過程で、武士団が成長していく点について、教科書の音読などを行ったり、また、歴史資料を多く紹介して理解を深めさせる。	昨年度は補強が必要だった「観察・実験の技能・表現」「自然事象についての知識・理解」が高くなっているのは、少人数授業により基礎学力が定着した成果と思われる。今年度も「物理現象」「大地の変化」等について粘り強く繰り返し学習を行い身につけさせていきたい。特に、実験ができない領域については視聴覚教材等を適宜利用して理論的に現象面をとらえられるようにする。

区学力調査の結果（前年度第2学年と比較）等から見られる成果と課題

国語	数学	英語	社会	理科
「書く力」「読む力」の到達度が高くなっている。詳細をみると、「音声言語」「説明的文章」が高くなっている。また、「言語についての知識・理解・技能」は不十分であり、「言語事項」が課題・復習ポイントといえる。	「数学的な見方や考え方」「数学的な表現・処理」の到達度が高くなっている。詳細を見ると、「数と式」「数量関係」が高くなっている。	観点別に見ると、「理解」のリスニングや、「知識理解」の達成度が高くなっている。全体的に目標値を上回っているため、大きな補強ポイントはない。	観点別に見ると、「社会的な思考・判断」「観察・資料活用」の技能・表現が高くなっている。詳細を見ると「地理・地域の規模に応じた調査」「歴史・近現代の日本と世界」が高くなっており強みといえる。全体を通じて大きな補強ポイントはない。	「観察・実験の技能・表現」「自然事象についての知識・理解」が高くなっている。詳細を見ると、「化学変化と原子・分子」「天気とその変化」が高くなっており強みといえる。また、全体を通じて大きな補強ポイントは見つからない。



学力向上のためのポイント

国語	数学	英語	社会	理科
少人数授業での読解や作文等を学級・学年単位での討議や発表等を引き続き行う。また、意味調べや反復練習等により、語句や漢字等の「言語事項」の定着を図る。	基礎クラスは、練習量を増やし、自分の課題を見つけ、問題集等で補充し、さらなる習熟を高める。また、発展クラスは、公式をただ利用するだけでなく、帰納的に導き出す力を身につけ、より理解を深め、応用力の向上を図る。	普段の授業やテストの結果等を見ると、英作文や、対話文等の長文読解に課題が見られる。きちんと文法を理解した上で、きちんと書けること、長文を読んできちんと内容理解できるよう、指導をしていく。	全般的に知識の定着は概ね良好といえる。歴史、地理における思考力、資料活用能力などは十分伸ばす必要がある。今後の公民の少人数授業の中で、統計や資料の読み取り、分析をきめ細かに行い、指導を強めていく。	今回の調査では概ね良好だったとはいえ、基礎的な領域がすべて理解されているとは考えられない。特に、凸レンズの作図や電流グラフの作成、計算等はなかなか理解されにくい。少人数の利点を生かし、たくさんの演習問題をこなすと共に、実験結果の理論的位置づけをしっかりと説明付けられるようにしていく。